

一 般 質 問

令和6年第2回定例会（6月12日）

質 問 者	内 容	答弁を求める者
高山 豊彦	1. 高齢者等が安心して暮らせる環境の整備について (1) 茶源郷乗合交通「WazCar」の湯船地区以外への運行体制を確保するための取組は。 (2) 高齢者等のゴミ出し負担を軽減するため、各地区のゴミステーション増設の考えは。 2. 住民の交通安全対策について (1) 中学校前バス停の横断歩道の安全を確保するための対策は。 (2) 撰原バス停三叉路から府道木津信楽線に出るための安全対策は。 (3) 撰原バス停三叉路周辺の道路拡幅等の改修計画は。	町長 総務課長 農村振興課長 町長 総務課長 建設事業課長
山本 達也	1. オープンエアミュージアム構想について現在の進捗と今後の進め方について。今後の町づくりの根幹を成し得る事業だと考えるが役場としてどのような体制で取り組もうとしているのか。 2. 和束町ホームページの抜本的な改修について、幾度も改修要望が出されている中、今まで要望に沿った改修がなされないのはなぜか。 3. 2022年度～2024年度5月末時点での転入（移住者）の推移は各年度何世帯、何名で、そのうち空き家バンク利用での移住者は何世帯、何名か。今年度の移住促進のための今までと違う取り組み、施策は何でどれだけの効果を見込んでいるのか。 4. 空き家対策について税制が見直される中、役場として空き家の利活用や賃貸・売却を促す新たな制度や取り組みは何か。	町長 町長 総務課長 町長 地域力推進課長 町長 地域力推進課長
岡本 正意	1. 町として物価高騰対策を直ちに具体化を (1) 物価高騰が止まらない中、6月議会での暮らしと生業への支援の具体化が不可欠ではないか。 6月議会で検討、具体化した支援は何か。 2. 地元農産物の地産地消の推進を (1) 第2次推進計画のとりくみ状況と次期計画の方向性は。 (2) 学校や保育園の給食での利用促進を。 ① 和束産の米や野菜の使用割合の抜本的な拡大を。 米は100%をめざし当面週1回など積極的に推進を。 ② 耕作放棄地の利活用や生産者の確保など、使用割合拡大のとりくみ強化を。	町長 町長 農村振興課長

- (3) 有機農業を広げ、安心安全な農産物の地産地消を進めるために「オーガニック・ビレッジ宣言」の検討を。

3. 地域で買い物、消費できるまちづくりを

町長

- (1) トンネル開通後、町外の商店、スーパー等に消費の流れが強まり、地元消費がさらに衰退するのではとの懸念の声があるが、町としての見通し、方向性は。
- (2) 「買い物エリア」の整備等、地域商店を維持・再構築し、地域で買い物、消費できる環境整備への方向性を持つべきでは。
- (3) 「移動販売車」の維持・継続へ、町としての方針を持ち、支援強化を。

4. 茶業の担い手確保へ支援拡充を

町長
農村振興課長

- (1) 茶業の担い手の現状、今後の見通しをどう分析し考えているか。
- (2) 新規就農者支援の上乗せ、「親元就業者」への支援など町独自のとりくみの検討を。
- (3) 援農者の一時住居の確保・斡旋など、町としても受け入れの仕組み整備を。